

## 「砂防学会誌投稿要領」および「砂防学会誌執筆要領」

砂防学会誌に投稿される方は、砂防学会誌投稿要領と砂防学会誌執筆要領をよくご覧頂き、本投稿要領に沿って手続き下さいますようお願い申し上げます。また、本投稿要領・執筆要領は平成29年10月1日以降に受け付ける投稿原稿から適用します。

砂防学会誌編集委員会  
平成29年5月9日改訂

### 砂 防 学 会 誌 投 稿 要 領

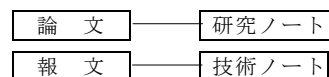
1. 本投稿要領は、砂防学会誌の投稿に関する全般的な内容を定めた「砂防学会誌投稿規程」に基づいて、投稿時の留意事項の詳細について定めたものですので、よく内容を確認して投稿して下さい。また、砂防学会誌の編集については、「砂防学会誌編集規程」および「砂防学会誌編集要領」を参考にして下さい。なお、執筆に関しては「砂防学会誌執筆要領」の内容をよく確認して下さい。
2. おもな投稿原稿の種別は次のとおりです。他学会誌等に未発表のものに限ります。

- 1) **論文**：砂防に関する理論的または実証的な研究・技術成果。観測、調査、実験等に基づく研究・技術成果で、新規性に優れた方法や結果を含み、それらを提示することが砂防にとって重要であると判断できるもの。
- 2) **報文**：砂防に関する調査、計画、設計、施工、現場計測などの技術に関する報告で、新規性や有用性に優れたもの。
- 3) **総説**：砂防に関する研究・技術・制度等の動向・評論・解説など。
- 4) **研究ノート**：砂防に関する理論的または実証的な研究・技術成果。観測、調査、実験等に基づく新規性のある研究・技術成果で、簡単にとりまとめたもの。
- 5) **技術ノート**：砂防に関する調査、計画、設計、施工、現場計測などの技術に関する新規性や有効性のある簡単な報告。
- 6) **災害報告**：自然災害の調査報告や速報。災害報告については、発災後なるべく早く掲載したいと思いますので、必ず原稿執筆前に編集委員会に連絡をお願いします。原稿締め切り及び査読スケジュールについて調整いたします。
- 7) **質疑応答**：論文・報文・総説・研究ノート・技術ノート・災害報告に対する質問・意見と、それに対する回答。質疑の受付は掲載後6カ月以内とする。
- 8) **報告**：砂防学会関連のシンポジウムなどの内容お

よび現場視察についての報告。

- 9) **新刊・文献紹介**：国内外で最近刊行された砂防に関係する書籍・文献などの紹介記事。
- 10) **ひろば**：砂防に関する事業や学会に対する意見・提案。
- 11) **その他**：随想、ニュース、訂正など。

上記1), 2), 4), 5) の関係を図示すると以下のようになります。



3. 論文・報文・総説・研究ノート・技術ノートは、和文または英文とし、その他は和文を原則とします。
4. 原稿の規定ページ数は以下のとおりです(図・表含む)。規定ページ数を超過する場合には原稿種別によって最大ページ数を以下のように定めます。なお、超過ページについては、超過料金が必要となります(7.参照)。
  - 1) 論文・報文・総説・災害報告：8 ページ以内(超過ページを含めて最大12 ページ)
  - 2) 研究ノート・技術ノート：4 ページ以内(超過ページを含めて最大8 ページ)
  - 3) 報告：4 ページ以内(超過ページを含めて最大8 ページ)
  - 4) 質疑応答：質疑は1 ページ以内(超過ページを含めて最大2 ページ以内)
  - 5) 訂正：1 ページ以内
  - 6) 新刊紹介：1 ページ以内
  - 7) ひろば：2 ページ以内
- 8) 1) ~7) 以外の種別の原稿のページ数は13.の問い合わせ先にお尋ね下さい。
5. 投稿原稿の提出にあたっては、次のようにします。図(写真含む)・表を含めた原稿を「刷り上がりイメージ」として作成して下さい。これを紙に印刷したものを論文・報文・総説・研究ノート・技術ノートは5部、それ以外は3部提出して下さい。なお、刷り上がりイメージのフォーマットは砂防学会ホームページからダウンロードできます。

6. 原稿には「投稿票」を添えて送付先に送って下さい。投稿票には、1) 投稿者氏名、2) 所属、3) 連絡先住所、4) 連絡先電話番号（内線）、Fax、e-mail、5) 表題、6) 著者名、所属および会員／非会員の別（投稿者全員）、7) 原稿の種別（論文・報文など）、8) 投稿原稿「刷り上がりイメージ」ページ数、9) 別刷追加希望の有無、10) カラー印刷の有無、11) その他 を箇条書きで、必ず記入して下さい。

送付先：〒105-0004 東京都港区新橋 5-20-4

**ニッセイエプロ㈱本社制作部編集室**

**「砂防学会誌」編集事務担当 高司智一**

**TEL：03-5733-5151(代)、FAX：03-5733-5168**

**e-mail：eblo\_h4@eblo.co.jp**

7. 掲載・別刷・超過ページ・カラー印刷の料金
- 1) 論文・報文・総説・研究ノート・技術ノート・災害報告については、掲載料を頂きます。これらに該当しない原稿に関しては、掲載料は頂きません。
  - 2) 論文・報文・総説・研究ノート・技術ノート・災害報告については、別刷 50 部の購入を義務づけます。別刷の増刷を希望する場合は、希望部数（50 部単位）により実費（消費税・送料込み）を頂きます。
  - 3) 規程ページを超過した場合（4.参照）、超過 1 ページあたり費用を頂きます。
  - 4) カラー印刷を希望する場合は、カラーページ枚数によって費用を頂きます。
  - 5) 掲載料、別刷代、超過ページ料金、カラー印刷料の振込先は下記のとおりです。
- 銀行名：みずほ銀行 麹町支店  
 店番号：021  
 口座番号：（普通）1938696  
 振込先：公益社団法人 砂防学会
- 6) 編集委員会より依頼された原稿の場合は掲載に際して著者の費用負担はありません。

表-1 掲載料

項目	価格（税込）
ページ単価	3,000 円/ページ
別刷単価	4,000 円/50 部
超過ページ追加料金	20,000 円/ページ
カラーページ 1 枚追加料金	30,000 円
カラーページ 2 枚追加料金	60,000 円
カラーページ 3 枚以上追加料金	90,000 円

\*表-1 掲載料は、7.1) で示す原稿に適用します。

例 1) 論文（ページ数 9 枚）、カラーページ 2 枚、別刷

の増刷なしの場合

$3,000 \text{ 円} \times 9 \text{ (掲載料)} + 20,000 \times 1 \text{ (超過ページ分)} + 60,000 \text{ 円 (カラー印刷)} + 4,000 \text{ 円 (別刷)} = 111,000 \text{ 円}$

例 2) 研究ノート（ページ数 4 枚）、カラーページ 1 枚、別刷増刷（50 部）の場合

$3,000 \text{ 円} \times 4 \text{ (掲載料)} + 30,000 \text{ (カラー印刷)} + 8,000 \text{ 円 (別刷)} = 50,000 \text{ 円}$

8. 投稿審査終了後に最終原稿として、「刷り上がりイメージ」を印刷したものと本文、図（写真含む）・表の電子データが保存された CD-R 等を提出して頂きます。なお、図・表は本文と別データとして、以下に従って整理して下さい。掲載通知後に提出して頂きます。
9. 図（写真含む）・表を電子的に作成し、作成したアプリケーションのアプリケーション名、Version、保存形式を図・表ごとに記した一覧をテキストファイル等に保存し提出して下さい。ただし特殊なソフト・拡張機能を用いた場合、データ変換の際に再現ができなくなる場合（透かし処理の不具合・罫線情報が消失）がありますので、汎用できるメタファイル形式か jpg、tif 等のデータも提出して下さい。（画像・図版等は拡大・縮小等に伴い罫線の幅・文字の大きさも変化しますのでレイアウト原寸を考慮した図版作成に留意下さい）図・表ごとにフォルダを作成し、拡張子を除くファイル名は Fig1、Table1 などとして下さい。また、タイトル一覧ファイルも作成してフォルダに格納して下さい。
10. 著者校正は初校のみとします。
11. 砂防学会誌に掲載された原稿は国立研究開発法人科学技術振興機構が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE) にてインターネット上で電子ジャーナルとして公開されます。
12. 刊行後判明した著者の責任による軽微な誤植については、編集委員会では訂正の掲載はしませんので、著者校正にあたっては十分ご注意ください。内容の理解にかかわる訂正については、訂正記事を掲載する方向で対応しますが、掲載の有無は最終的には編集委員会で判断いたします。費用負担は 7. のとおりとします。
13. 投稿原稿に対するお問い合わせは、以下へお願いします。

〒305-0804 茨城県つくば市旭 1 番地

**国土交通省 国土技術政策総合研究所**

**土砂災害研究部 砂防研究室**

**「砂防学会誌」編集委員会主事 内田太郎**

**TEL：029-864-4372、FAX：029-864-0903**

**e-mail：uchida-t92rv@milit.go.jp**

## 砂防学会誌執筆要領

1. 投稿原稿は砂防学会ホームページに掲載する刷り上がりイメージのテンプレートに従い作成して下さい。
  - 1) 刷り上がりイメージは A4 サイズ、余白は上下 15mm、左右 18mm とします。
  - 2) 1 ページ目の上段に 2. の原稿種別の形式に従って表題等を記載します。
  - 3) 本文は 25 字の 2 段組とします。2 ページ目以降は 25 字×50 行×2 段組で、図・表は本文の適切な箇所にオブジェクトを挿入するか、スペースを取ってコピー（縮小）を貼り付けて下さい。その際に文字が読みとれるようサイズに注意して下さい。
2. 原稿種別による原稿形式は次のとおりです。記載がない原稿種別については編集委員会にお問い合わせ下さい。

### 論文・報文・研究ノート：

- 1) 表題（英文併記）
- 2) 著者名・所属（英文併記、全著者を記載、代表者 e-mail）・会員／非会員の別（投稿者全員）
- 3) 英文要旨（論文・報文：250～350 語程度、研究ノート：100～150 語程度）
- 4) 英文キーワード（3～5 語程度）
- 5) 本文（和文または英文のいずれか）
- 6) 引用文献または参考文献

### 総説・技術ノート・災害報告：

- 1) 表題（英文併記）
- 2) 著者名・所属（英文併記、全著者を記載、代表者 e-mail）・会員／非会員の別（投稿者全員）
- 3) 英文要旨（総説：250～350 語程度、技術ノート・災害報告：100～150 語程度）
- 4) 英文キーワード（3～5 語程度）
- 5) 本文（和文または英文のいずれか）
- 6) 引用文献または参考文献  
ただし、3)、4) は任意

### 質疑応答：

- 1) 表題（質疑対象の原稿の著者名、表題、掲載巻号ページを記載）
- 2) 著者名・所属（英文併記、全著者を記載、質問者と回答者のそれぞれの代表者 e-mail）・会員／非会員の別（投稿者全員）
- 3) 本文
- 4) 引用文献または参考文献

### 報告、新刊・文献紹介、ひろば、随想、ニュース、訂正など：

- 1) 表題

2) 著者名・所属（全著者を記載）・会員／非会員の別（投稿者全員）

3) 本文（和文または英文のいずれか）

4) 引用文献または参考文献

3. 表題には連番を用いないで下さい。

例) ～の研究（その 1）

4. 所属の記載方法について、著者所属は、組織名・部署などが分かるように記載して下さい。また、代表著者の連絡先（e-mail アドレス等）を記載して下さい。

例) 東京大学大学院農学生命科学研究科、国土交通省国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所、国土交通省〇〇地方整備局△△事務所、〇〇県△△土木事務所、〇〇コンサルタンツ㈱等

所属の英文は基本的には省略しないで下さい。ただし、一般的な略記は可とします。

例) Lab. of Forest & Hillslope Conservation, Fac. of Bioresources, Mie Univ., Graduate School of Agri., Kyoto Univ., Public Works Inst., 〇〇 Consultant co., ltd. etc.

5. 英文要旨は論文・報文・総説の場合 250～350 語程度（総説は任意）、研究ノート・技術ノート・災害報告の場合 100～150 語程度（技術ノート・災害報告は任意）で改行せずに記載して下さい。研究の目的、方法、結論などを要領よく明確に記載して下さい。なお、英文法・スペルなどは著者責任で英文校閲を受けて下さい。

6. 本文中には次のような見出し番号を付けて下さい。

1) 本文中の見出し番号

第 1 順位（章） 1. 2. 3. …

第 2 順位（節） 1.1 2.2 3.3 …

第 3 順位（項） 1.1.1 1.1.2 1.1.3 …

箇条書き 1) 2) 3) …

見出しの後は改行し、全角 1 字空けて本文を書き始めます。ただし、第 1 順位（章）の後は 1 行空けて次の章見出しを始めて下さい。

- 2) 句読点はカンマ（,）と丸（。）を用いて下さい。

カッコなどには全角 1 字分を充てて下さい。

7. 用語・用字は下記に従って記載して下さい。

1) 漢字と仮名遣いは「常用漢字表」、「現代仮名遣い」、「送り仮名の付け方」によって下さい。

2) 地名・人名などのうち難読漢字にはふりがなを付けて下さい。外国の地名、人名などはカタカナ書きを原則とし、原語を（ ）で記載して下さい。なお、一般に常用されている周知の地名

(アメリカ合衆国、インドネシアなど)はカタカナ書きのみで結構です。

- 3) 学術用語は、それぞれの分野で標準とされている用語(日本学術振興会「学術用語集」などを参照)を用いて下さい。
  - 4) 数式や学名に用いるイタリックの字体は著者がワープロソフト上で指定して下さい。最終的に印刷校正時に著者責任で確認して下さい。
  - 5) 太字、下線、箱書きなどは使用しないで下さい。
8. 数式・記号は下記に従って記載して下さい。
- 1) 数式や記号に使用する文字・記号・単位記号などは、通常用いられる常識的なものとします。
  - 2) 数字・英字・ギリシャ文字およびそれぞれの大文字・小文字のうちにはまぎらわしいものが多いため、英数字と明瞭に区別できるフォントを用いて下さい。
  - 3) 数式はできる限り、数式作成ソフトを用いて下さい。これによらないで表記する際に、これらに含まれる「上付き」あるいは「下付き」などの文字や数字が明瞭に分かるよう、必要に応じて手書き等の資料を提出して下さい。
  - 4) 数式を記載する場合には、記号が最初に現れる箇所では記号の定義を文章で表現して使用して下さい。
  - 5) 数式番号は本文で通し番号として、数式の後に「…」を入れて、その右端に( )書きとして下さい。
9. 単位は SI 系を基本とします。
10. 図(写真含む)・表は、図-1, 表-1, Fig. 1, Table 1のように、日本語表記では全角ハイフンの後に、英語表記の場合は半角空白の後に、アラビア数字で半角の番号を記し、それぞれに本文を通じて通し番号を充てて下さい。さらに、同番号に小分けがある場合は、図-1(a)のように( )を付けて記して下さい。図は下に表題、表は上に表題を記載します。
- 論文・報文・総説・研究ノートにおいては、原則として表題および注記・説明文を英文併記として下さい。表中の数字は小数点の位置をそろえて、3桁ごとのカンマ(,)と小数点(.)の区別を明確に示して下さい。図中の点や線、軸の目盛等は明瞭に分かるように大きさ等に注意して下さい。
11. 引用文献または参考文献
- 1) 引用文献あるいは参考文献は、読者が確認、追跡できる公表資料(論文等)として下さい。
  - 2) 引用文献または参考文献は、次の A, B いずれかの方式で記載して下さい。論文・報文・研究ノートあるいは英文で投稿の場合には、A 方式を奨励します。

## A. 引用文献方式

- a) 引用文献は著者名(論文筆頭著者)のアルファベット順に記載し、本文中には該当著者名に(発行年)あるいは、当該事項に(著者名, 発行年)を付けて引用して下さい。また、発行年が不明な場合は(著者名)を付けて引用して下さい。なお、同一著者名で同一発行年の複数文献を引用する場合には、発行年の後に発表順に a, b, c を付けて下さい。ただし、発表年が不明な場合は著者名の後に付けて下さい。

例)

(Araya, 1999a) と (Araya, 1999b), (気象庁 a) と (気象庁 b) など。また、同一の引用内に複数の文献を引く場合は、例えば(芦田ら, 1978; 高橋, 1985)のように間にセミコロン(;)を入れて下さい。

- b) 引用文献の書き方は次のとおりです。

学術雑誌の場合は、著者名(発行年):論文名, 雑誌名, 巻号(例; Vol.60, No.3), 引用ページ(例; p.76-82)の順に記入して下さい。

英文雑誌の場合に著者名は、姓・名の順とし、名はイニシャルのみとします。英文論文の表題は第 1 字のみ大文字とし、その他は固有名詞以外は小文字とします。

単行本の場合は、著者名(発行年):書名, 発行所, 引用ページとします。洋書の場合、書名は各単語の頭文字を大文字として下さい。

書籍で総ページ引用の場合は、例えば, 333pp. のように記載します。

例)

芦田和男・高橋保・水山高久(1978):山地河川の掃流砂量に関する研究, 砂防学会誌(新砂防), Vol.30, No.4, p.9-17

Ferro, V. and Baiamonte, G. (1994) Flow velocity profiles in gravel-bed rivers, *Journal of Hydraulic Engineering* Vol.120, No.1, p.60-80

森俊勇・坂口哲夫・井上公夫(2011):日本の天然ダムと対応策, 古今書院, 202pp.

Schumm, S.A. (1977): *The Fluvial System*, John Wiley & Sons, p.43-48

- c) web ページは出所が明確である等、信頼に足るものとし、記載方法は次のとおりです。

著者名(発行年):資料名または Web ページ名, 参照先 URL, 参照日付の順に記入して下さい。なお、参照日付は「参照 yyyy-mm-dd」の形式とします。

例)

国土交通省河川局砂防部・気象庁予報部（2005）：都道府県と気象庁が共同して土砂災害警戒情報を作成・発表するための手引き，[http://www.mlit.go.jp/river/sabo/seisaku/tebiki\\_h1706.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/sabo/seisaku/tebiki_h1706.pdf)，参照 2013-01-15

Costa, J. E. and Schuster, R. L.（1987）：The Formation And Failure Of Natural Dams, US Geological Survey Open-File Report 87-392, <http://pubs.usgs.gov/of/1987/0392/report.pdf>, 参照 2013-01-15

## B. 参考文献方式

a) 参考文献は引用順に番号を付けて記載し，本文中にはその番号を著者あるいは事項の右肩上に示して文献リストと対応させて下さい。参考文献参照記号は，1), 2), 3)・・・として，「上付き」で全角1字分を充てて下さい。

b) 参考文献の書き方は次のとおりです。学術雑誌の場合は，番号)著者名：論文名，雑誌名，巻号，引用ページ，発行年の順に記入して下さい。

英文雑誌の場合には同じ順に記載し，表記方法はA方式と同様です。

単行本の場合は，番号)著者名：書名，発行所，引用ページ，発行年の順に記載し，洋書の表記方法はA方式と同様です。書籍で総ページ参考の場合は，例えば，333pp.のように記載します。

例)

1) 芦田和男・高橋保・水山高久：山地河川の掃流砂量に関する研究，砂防学会誌（新砂防），Vol.30, No.4, p.9-17, 1978

2) Ferro, V. and Baiamonte, G. : Flow velocity profiles in gravel-bed rivers, *Journal of Hydraulic Engineering* Vol.120, No.1, p.60-80, 1994

3) 森俊勇・坂口哲夫・井上公夫：日本の天然ダムと対応策，古今書院，202pp., 2011

4) Schumm, S. A. : *The Fluvial System*, John Wiley & Sons, p.43-48, 1977

c) web ページは出所が明確である等，信頼に足るものとし，記載方法は次のとおりです。

著者名：資料名または Web ページ名，参照先 URL，参照日付，発行年の順に記入して下さい。なお，参照日付は「参照 yyyy-mm-dd」の形式とします。

例)

1) 国土交通省河川局砂防部・気象庁予報部：都道府県と気象庁が共同して土砂災害警戒

情報を作成・発表するための手引き，[http://www.mlit.go.jp/river/sabo/seisaku/tebiki\\_h1706.pdf](http://www.mlit.go.jp/river/sabo/seisaku/tebiki_h1706.pdf)，参照 2013-01-15, 2005

2) Costa, J. E. and Schuster, R. L. : *The Formation And Failure Of Natural Dams*, US Geological Survey Open-File Report 87-392, <http://pubs.usgs.gov/of/1987/0392/report.pdf>, 参照 2013-01-15, 1987

3) 砂防学会誌（新砂防）の引用文献または参考文献への記載方法は，下記のように統一します。

a) 通巻 No.1～32；雑誌タイトルは「新砂防」とし，巻号は通巻番号のみを記載します。

b) 通巻 No.33～87；雑誌タイトルは「新砂防」とし，巻号は「Vol.23, No.1」のように記載し，通巻は用いません。

c) 通巻 No.88～203；雑誌タイトルは「砂防学会誌（新砂防）」とし，巻号は「Vol.26, No.1」のように記載し，通巻は用いません。

d) 通巻 No.204～；雑誌タイトルは「砂防学会誌」とし，巻号は「Vol.49, No.1」のように記載し，通巻は用いません。